

# 支所だより

東予・丹原・小松の各総合支所管内での、身近な出来事や話題などを紹介するコーナーです。

## 東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

### 校歌の風景「石鎚山と瀬戸内海」

～ふるさとを愛する教育～

この4月に小中学校に入学した新入生も1カ月がたち、初めての校舎になじみ校歌も覚えた頃です。「愛校心」や「郷土愛」をはぐくむ校歌の短い歌詞には、教育理念や校風、そして学校周辺の自然や風土が織り込まれています。

東予地区には小学校が9校、中学校が3校あり、現在歌われている校歌の多くが昭和20年代から40年代に制定されたものです。西日本最高峰の雄大な姿を望み、穏やかな燐灘にも面している東予地区の各校の校歌には、西条の自然を代表する石鎚山と瀬戸内海がいずれも謳われています。

例えば、河北中学校の校歌では、一番に「朝晴れわたる石鎚の崇き姿仰ぎつつ」、二番でも「眼下に開く内海の湛ふ汐の色深く」と、ともに最初に登場しています。

校舎は建て替えられ昔の面影はなくなっても、校歌は変わらぬまま子どもたちに歌い継がれています。特に、教室や運動場・通学路など、いつでもどこからでも仰ぎ見ることのできる石鎚山は、四季折々にその表情を変えながら、いつの時代も子どもたちを見守り続けているのです。

市教育委員会では、市内全小中学校のチャイムをそれぞれの校歌のメロディーにする、県内初となる試みを行っています。校歌を通じ、子どもたちや保護者だけでなく地域の皆さんを含めた学校を中心とするコミュニティーの、一体感がさらに深まることを願い取り組みを進めています。

東予東中学校から  
仰ぐ石鎚山



庄内小学校から  
望む瀬戸内海

## 丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

### 交通・産業の要衝だった釜之口

～渡船場や堰を知る往時～

広報さいじょう平成21年11月号のこのコーナーでは「桜三里」についてご紹介しましたが、今回はかつて丹原町の交通や産業の要衝であった釜之口にスポットを当てます。

丹原地区を通る金毘羅街道は、暴れ川として知られた閑屋川を越えると、丹原町長野の釜之口から船で中山川を渡り、丹原町明穂を経て小松町大頭・小松陣屋町へと進み西条に至ります。当時、河南地区（寺尾・志川・湯谷口）に旅人が利用できるような道はなかったため、釜之口には



かつて渡船で旅人が行き来した中山川  
(左側が釜之口・奥に新金比羅橋)

茶屋や旅籠などが数軒並び賑わっていたようです。

釜之口の渡しは大正初期まで利用されていたようで、その跡には「旧金比羅街道渡船場」の石碑が建てられています。現在はその少し下流に新金比羅橋が架けられ、丹原町長野・明穂や小松を結ぶ主要な道路となっています。

また釜之口には、田野・丹原・周布地区の千町歩にわたる水田に中山川から用水を賄った釜之口井堰があり、さらに下流には対岸の明穂、小松町の安井・大頭地区への利水のため大頭井堰もありました。これらの堰からの用水は、農業生産の生命線であり各藩の財政を左右する重要なものであったことから、水争いが絶えなかったとも言われています。



渡船場の存在を今に伝える石碑

## 小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

### 大地とともに心を耕す

～のらねこ学かん～

障害のある人たちの集いの場「のらねこ学かん」開設のため、16年前に私財を投じた塩見志満子館長。そのきっかけは、養護学校勤務時代に感じた、障害のある子どもたちにできることはないか、保護者の方が悲しみを忘れられる日を1日でもいいから作れないか、との思いからでした。



ダンスで汗を流す「のらねこ学かん」  
に集う皆さん（左端が塩見館長）

毎日、障害のある人や心を病む人、不登校の人たちと向き合ってその悩みを聞き、金曜日の夜にはダンスを中心とした運動療法も行っています。助けが必要な困っている人

には24時間門戸を開いており、「来る者は拒まず、去る者は追わず」をモットーとしています。

「最近では、後天的に心の病を抱える人が増えています。大地とともに心を耕さなくなったから、心を病む人ができる。畑や自然の中へ出かけて行き、運動をして汗をかくことが、人間の心の安定には最高の治療だと思う」と話す塩見館長の目標は、学かんを1日でも長く続けることで、その運営費を捻出するため、全国各地で講演活動を精力的に行っています。そうした講演を聞いて、塩見館長の活動を知った幼児から高齢者までさまざまな人たちが、日本中から「のらねこ学かん」を訪れています。

塩見館長は「みんなと一緒にダンスをして、一番エネルギーをもらって楽しんでいるのは私かもしれません」と、年齢を感じさせない若さに満ち溢れた笑顔を見せてくれました。